

## 戦争体験を語る会

と き 平成24年7月28日（土）午後1時30分～3時30分

ところ 豊橋市中央図書館 3階 集会

今年も3階の集会室において、「戦争体験を語る会」が開催されました。暑い日でしたが、大勢の参加者を迎えることができました。



今年は、司会に三重大非常勤講師の広中一成さんをお願いし、座談会形式で3名の講師の方々からのお話と豊城中学校1年生の生徒さんに発表していただきました。

はじめに豊城中学校の1年生2名が、昨年度松葉小学校6年生の時に学んだ「戦争についての学習」から学んだことを、作文にして発表しました。



95歳の杉浦右一さんは、「二度の中国出征と抑留生活」について、年齢を感じさせないはっきりした口調で話されました。

88歳の写真家兼井円成さんは、「ソ満最前線と抑留生活」をテーマに、ソ連と満洲国境付近で、ソ連軍と銃撃戦をしたことや、シベリア抑留について、生々しく語られました。

77歳の高橋恵子さんは、「特攻隊」で亡くなったお兄さんのことを作文にし、声を震わせながら朗読をされました。



以下は、「戦争体験を語る会」の感想（一部）です。

1 野村龍三さんの決死の志願には心打たれました。私は、昭和4年生まれで豊橋中学3年生の時、担任より予科練志願を勧められましたが、自分の命が大事で怖くて受けませんでした。兼井円成さんの話は、ことばもはっきりしていて、抑留の話も具体的に聞き手の心に深く残りました。スクリーンに大きな文字で、カラーで映し出されたのは、分かりがよかったです。ありがたかった。これからも、今回のような体験を語ってほしい。

2 豊城中学生の山口さん、秋本さんの「戦争の学習から学んだこと」の発表はなかなか上手にできました。りっぱです。

3 もっと自分自身の父母に戦争時のことを聞いてあげたかった。そして父母は子どもにもっと聞いて欲しかったに違いないと切実に感じました。これからもこの活動を希望します。

4 肉体的にも精神的にも大変な思いをされた3人の方が、今元気にお話ができることに敬意を表したいです。父が生きていれば97歳、父から満洲の話を書きましたが、今改めて戦中・戦後の苦労話を思い出しました。今の幸せをかみしめる時間をいただいたことに感謝いたします。

5 二度とあってはならない戦争を後世に伝えてほしい。若い方に伝えてください。

6 看護師として働いています。患者様にも戦争を体験された方がいて、不穏状況中でもその時のことはしっかり覚えているらしく、鮮明に語られます。過酷な体験なのだと痛感しました。今日の体験談を聞いて、切なくなりました。改めて戦争の悲惨さを知り、決して忘れてはならないと感じました。是非、今後も継続していただき、これからも子どもたちにも伝えていってほしいと強く思います。